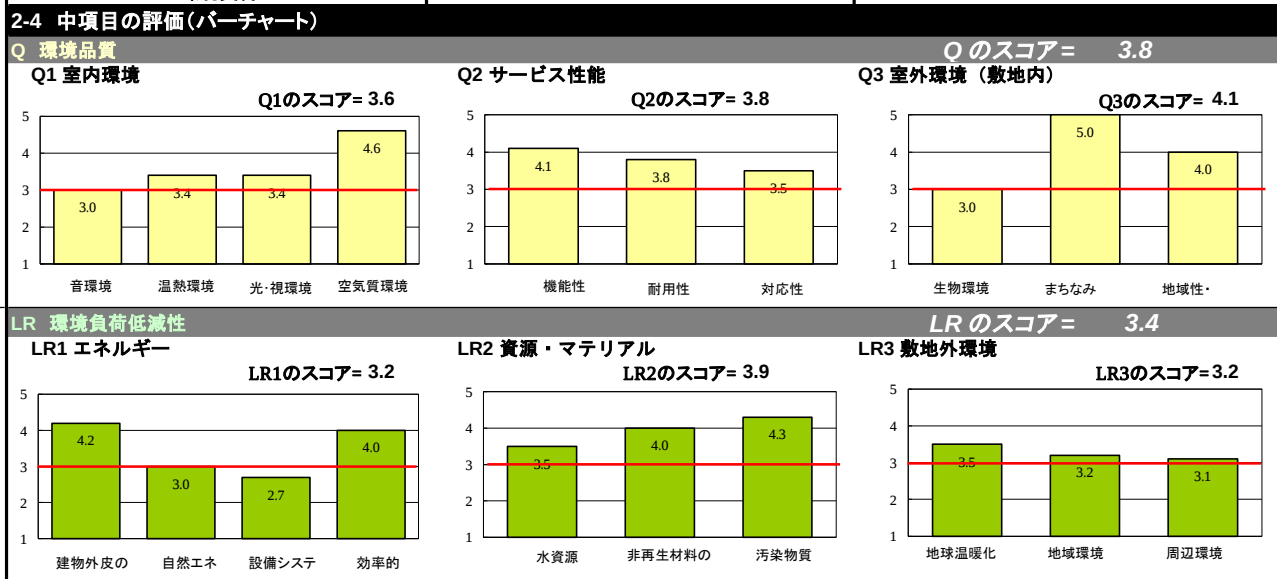
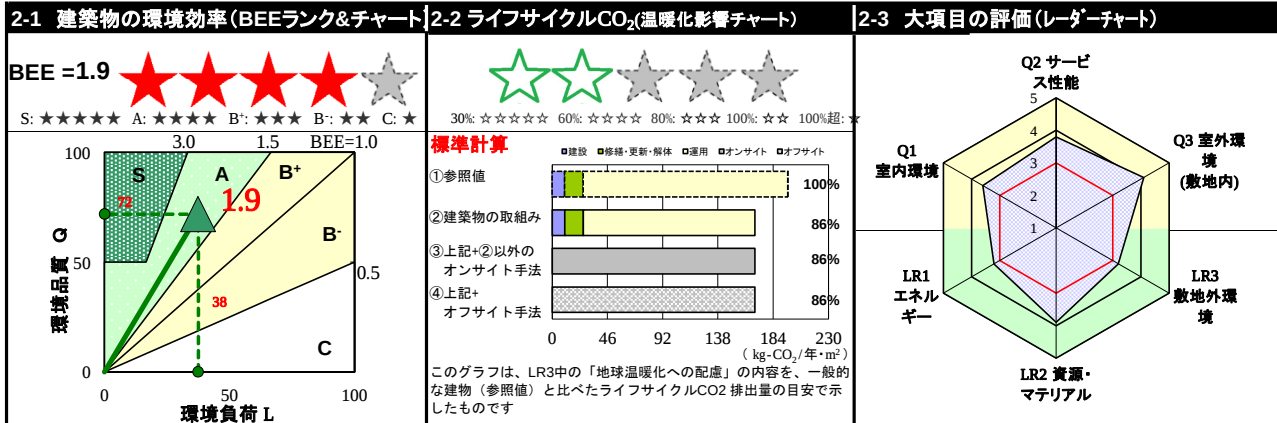


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪医科大学附属病院新本館新築工事(新本館)	階数	地上12階、地下1階
建設地	大阪府高槻市大学町	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)、第二種住居地域、近隣商業地域	平均居住人員	2,131 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年7月 予定	評価の実施日	2025年3月28日
敷地面積	51,940 m ²	作成者	清水建設
建築面積	5,636 m ²	確認日	2025年3月28日
延床面積	55,916 m ²	確認者	清水建設

本図を右クリックし、「図の変更」を選択していただくことで、外観図等を貼り付けることができます。



3 設計上の配慮事項		
総合 施設老朽化に伴う大学病院の現地建替計画。 新本館(新病院棟)を2期に分け建設し、付帯する渡り廊下等を新本館竣工後に建設する工事ステップとしている。 「バイオフィリア」の考えを取り入れ、全ての利用者が健康で幸せな生活を送ることができる空間を創造する。		その他 7年に及ぶ現地建替のため、入院患者・来院者・近隣住民等に対して既存病院解体・新築工事時の騒音・振動・臭い・工事車両動線等に配慮する。
Q1 室内環境 外気や昼光取入れに配慮し、ゾーン別に冷暖房の選択が可能な空間システムを採用、多床室ではベッド単位での照明制御が可能。 内装材はF☆☆☆☆かつVOC放散量の少ない建材を使用する。	Q2 サービス性能 病室の面積は8m²/床、天井高2.7mを確保。 基礎免震構造とし、内部設備を保護している。 非常用発電・無停電電源の設置、受電設備の二重化、熱源種の二重化等も採用し、多岐にわたり災害時のリスク分散を図る。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地境界線から建物を後退させ緑歩道を設けることで、地域活動の活動やにぎわいに貢献する。 新本館は7階からセットバックして圧迫感を軽減し、既存建物と統一感のある外観としてみなみに配慮している。
LR1 エネルギー 断熱性能の高い躯体構成及び建材使用による省エネルギー化に配慮する。 各種設備のエネルギー消費量を把握し妥当性の確認や、システム効率の評価を行うことにより性能評価が可能である。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器や自動水栓等の採用により、節水に配慮する。 主要構造躯体の材料削減対策や、内装のリサイクル材、有害物質を含まない材料を多数採用し、フロン・ハロンを回避する建材も採用している。	LR3 敷地外環境 敷地内に適切な駐車場・駐輪場を確保し、シャトルバス利用による周辺道路への交通負荷抑制に配慮する。 大学・病院全体として有価物の集団回収やゴミドラムによる生ゴミの減容化に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版	受付番号	R7-変-0001
大阪府の重点評価(結果)		Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大阪医科大学附属病院新本館新築工事(新本館)							
建設地		大阪府高槻市大学町							
用途／区分		病院							
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A		
①	CO2削減						4		
②	みどり・ヒート アイランド対策						3		
③	建物の断熱性						4		
④	エネルギー削減						3		
⑤	自然エネルギー直接利用						—		
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3－1」のスコアによる評価	3.5	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3－1」のスコアによる評価	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3－3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3－2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1－1」のスコアによる評価	4.2	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1－3」のスコアによる評価	2.7	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1－2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	特になし。	